黒部宇奈月キャニオンルートを体験するには、旅行会社を通じて販売するツアーへの申込みが必要です。



基本となる一泊二日の4種類のコースが設定されます。黒部宇奈月キャニオンルート訪問の前泊または後泊がセットになっています。

宇奈月 発		黒部ダム 発	
第1便	第2便	第1便	第2便
宇奈月温泉泊	富山市内泊	大町温泉郷泊	—
宇奈月 ▼ 黒部宇奈月 キャニオンルート ▼ 黒部ダム		黒部ダム ▼ 黒部宇奈月 キャニオンルート ▼ 宇奈月	
—	—	—	宇奈月温泉泊

※ツアーの情報は2026年時点のものです。

立山黒部アルペンルートと黒部峡谷を結ぶ新たな観光周遊ルートが形成されます。

立山黒部アルペンルート



標高3,000m級の北アルプスを貫く、世界有数の山岳観光ルート。富山県と長野県をつなぐ37.2kmの交通路を、多彩な6つの乗り物で気軽に楽しむことができます。春の「雪の大谷」や、紺碧の水面に立山を映す夏の「みくりが池」、眼下に紅葉が広がる秋の立山ロープウェイなど、四季折々の魅力が満載です。

黒部峡谷トロッコ電車



清流の黒部川に沿って、宇奈月・欅平間の約20kmを片道1時間20分で進むトロッコ電車。深い峡谷を縫うように走り、カーブごとに景色が鮮やかに移り変わります。沿線には、高さ約60mの後曳橋や、河原を掘って湧き出る温泉、人喰岩、猿飛峡など秘境黒部峡谷ならではのスポットが多く、大自然を体感できます。

立山山麓



立山は万葉の時代より「神々が宿る山」とされ、富士山や白山と並ぶ「日本三霊山」として、山岳信仰の対象でした。信仰の拠点であった芦峅寺には、今も雄山神社や閻魔堂などがあり、立山信仰の原風景をなしています。また、落差日本一（350m）を誇る称名滝は、国の名勝・天然記念物に指定され、「日本の滝100選」にも選ばれています。

宇奈月温泉



黒部峡谷の玄関口にある、富山県随一の規模を誇る温泉郷。黒部川上流の黒薙温泉が源泉のお湯は、美肌の湯としての条件が揃っており、大正12（1923）年の開湯以来、長年愛されてきました。この地で味わう富山湾の新鮮な海の幸や黒部の名水で仕込んだ地酒、地ビールも絶品です。

富山県　富山県観光推進局 観光振興室　TEL 076-444-4498

詳しい情報はwebサイトをご覧ください。
https://canyon-route.jp/

※記載内容は2026年10月現在のものです。予告なく変更する可能性があります。

KUROBE-UNAZUKI CANYON ROUTE

黒部宇奈月キャニオンルート

2026年10月、ツアー始動。

世紀の大事業とよばれた「くろよん」完成からおよそ60年。
黒部奥山の地底に存在する、日本経済を支えた
電源施設群が、一般開放される。
立山黒部アルペンルートと黒部峡谷鉄道がつながるとき、
立山黒部をめぐる新たな旅の物語が幕を開ける。

人跡未踏の黒部峡谷に挑んだ電源開発の軌跡

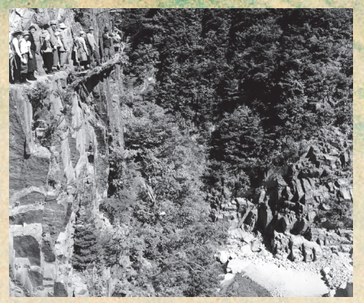
～秘境の地底に広がる巨大な電源施設群を往く～

美しく雄大な大自然を守るため、地底につくられた多様な電源施設や設備。
当時の人類の英知を結集した電源開発の軌跡が目の前に迫る。

※黒部宇奈月キャニオンルート
黒部ダムと黒部峡谷の欅平を結ぶルートで、黒部川第三・第四発電所の建設などに伴い、日本電力（株）や関西電力（株）が工事用ルートとして整備したもの。2018 年に関西電力（株）と富山県が締結した協定により一般開放・旅行商品化されることとなった。

History

日本の建設史に残る、電源開発の物語



昭和4（1929）年に全通した日電歩道（提供:関西電力）

はじまりは、秘境の調査

水力発電に適していながら、秘境と呼ばれた厳しい自然が人々の行く手を阻んできた黒部川。アルミ製造の電力を求めて、大正6（1917）年に初めて電源開発に向けた調査が始まった。調査や工事のため絶壁を削り桟道（水平歩道～日電歩道）がかけられていったが、当時の幅は50センチほどであった。先人たちのまさに命がけの努力が多くの人々の暮らしを支える黒部川水力発電の礎となっている。

最大の難関「高熱隧道（こうねつずいどう）」

昭和11（1936）年、黒部川第三発電所と仙人谷ダムの建設がスタート。仙人谷までは急勾配なため、エレベーターと隧道（トンネル）による輸送を計画。隧道の掘削が進むにつれ温度は不気味に上昇し、高熱地帯に到達。作業員に冷水をかけながら昼夜交代で掘り進めるなど、工事は困難を極めた。さらに、作業員の宿舎を、大雪崩が襲来。4階建ての宿舎が1階を残して吹き飛ばされた。幾多の困難を乗り越え、完成した発電所の出力は当時日本最大を誇った。



建設中の黒部川第三発電所。昭和15（1940）年発電開始
（提供:関西電力）



4℃の冷水が最大で毎秒660ℓも噴出した破砕帯（提供:関西電力）

「破砕帯（はさいたい）」との遭遇と突破

第二次世界大戦後、日本経済の復興が本格化するなか、電力需要の拡大を受け、昭和31（1956）年、「くろよん（黒部川第四発電所・黒部ダム）」の建設が始まった。翌年、大量の土砂と地下水が噴き出す地層「破砕帯」に遭遇。この状況は全国に報道され、建設は不可能かと思われたが、我が国の地質学会、土木学会の知識と経験を結集し、関係者の苦闘の末、7ヶ月を要して、破砕帯を突破。昭和38（1963）年6月、7年の歳月と延べ1,000万人もの人手を要し「くろよん」は竣工を迎えた。



1 竪坑（たてこう）エレベーター

200mの標高差を一気に昇降。山の中腹を垂直に貫く巨大なエレベーターは、急峻な地形のため、鉄道を延ばすことができなかったことから、昭和14（1939）年に設置され、建設当時その標高差は日本一を誇った。



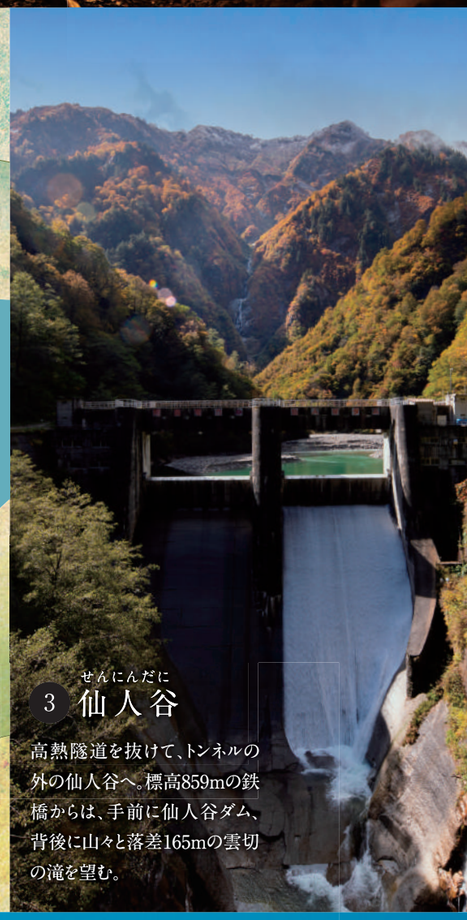
（提供:佐藤工業）

2 高熱隧道（こうねつずいどう）

蓄電池機関車で通過する「高熱隧道」は、掘削時、岩盤の温度が160℃を超え、ダイナマイトの自然発火等があり、工事は難航した。
現在も約40℃あり、列車内からも硫黄臭や熱気が感じられる。

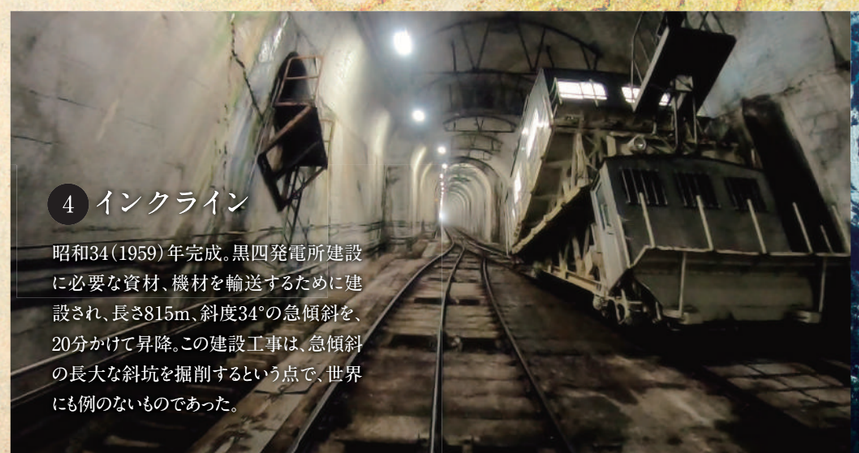


※ルート上は、大部分がトンネル区間のため景勝地全てを眺めることができるわけではありません。



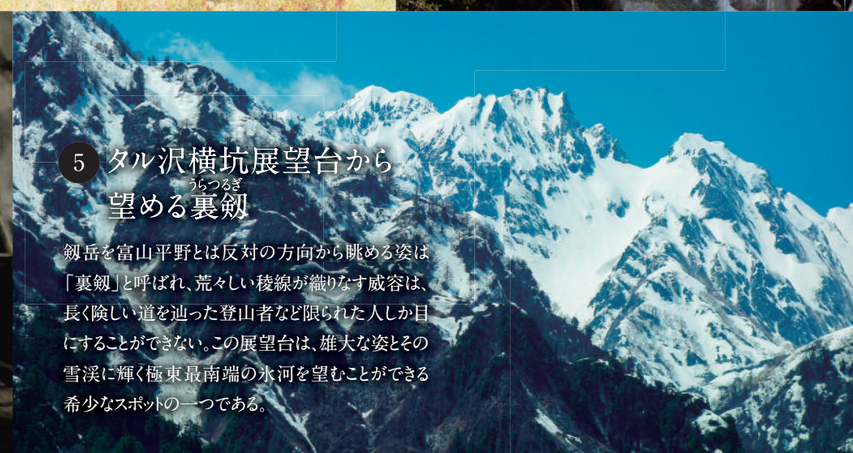
3 仙人谷（せんにんだに）

高熱隧道を抜けて、トンネルの外の仙人谷へ。標高859mの鉄橋からは、手前に仙人谷ダム、背後に山々と落差165mの雲切の滝を望む。



4 インクライン

昭和34（1959）年完成。黒四発電所建設に必要な資材、機材を輸送するために建設され、長さ815m、斜度34°の急傾斜を、20分かけて昇降。この建設工事は、急傾斜の長大な斜坑を掘削するという点で、世界にも例のないものであった。



5 タル沢横坑展望台から望める裏剱（うらつるぎ）

剱岳を富山平野とは反対の方向から眺める姿は「裏剱」と呼ばれ、荒々しい稜線が織りなす威容は、長く険しい道を辿った登山者など限られた人しか目にすることができない。この展望台は、雄大な姿とその雪渓に輝く極東最南端の氷河を望むことができる希少なスポットの一つである。